

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人神戸大学

1 全体評価

神戸大学は、「学理と実際の調和」を理念とし、社会科学分野・理科系諸分野双方に強みを持つ特色を発展させ、「先端研究・文理融合研究で輝く卓越研究大学」への進化を目指している。第3期中期目標期間においては、①先端研究の臨場感のなかで創造性と学識を深め、地球的課題を解決するために先導的役割を担う人材を輩出すること、②文・理の枠にとらわれない先端研究を推進し、他機関とも連携して、新たな学術領域を開拓・展開すること、③海外大学と重層的な交流を図り、世界から優秀な人材が集まり、飛び出していくハブ・キャンパスとしての機能を高めること、④これらの教育研究を社会と協働して推進し、社会還元することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、グローバル人材の育成に向けた教育プログラムの拡大を図るとともに、外部有識者を活用した運営の活性化を図るなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 全学的な数理・データサイエンスに関する教育研究の充実を図り、世界で活躍するイノベーション人材を育成するため、「数理・データサイエンスセンター」を設置し、平成30年度からの本格開講に向けて、「データサイエンス入門1，2」の試行的な開講を行っている。（平成29年度受講者数：70名）（ユニット「グローバル人材育成に向けた国際通用力の強化」に関する取組）
- 「国際人間科学部」を設置し、「国際開発援助論（JICA）」や「協働型リーダーシップ論」等の学部共通科目に加え、海外研修とフィールド学修から成る「グローバル・スタディーズ・プログラム」を置き、「協働型グローバル人材」養成に則した新たなカリキュラムの運用を開始している。（ユニット「グローバル人材育成に向けた国際通用力の強化」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善				○		
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載15事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 外部有識者の活用による運営の活性化

海外アドバイザリーボード委員からの東欧諸国との連携を強化し、共同研究・教育活動の拡充を図るべきとの意見を踏まえ、ポーランド、ハンガリー、チェコ、スロバキアの大学との優れたコース・学位プログラムを開設する大学への助成を行う基金へ申請・採択され、EUにおける中・東欧地域の重要性や日本と中・東欧地域との関連、日本における同地域の位置付けについて学ぶコースを開始している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、当期総損失が生じていること等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について課題がある。

○ 財務諸表上の当期総損失に関する課題

新たに整備した国際がん医療・研究センターにおいて、当初計画どおり企業からの支援を受けられなかったこと等により当期総損失が生じていることから、財政再建に向けた取組を計画的に実施することが求められる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 国際的な研究成果の発信強化

海外メディアへの研究ニュースの配信及び海外の大学や研究機関との国際連携につなげるため、研究ニュースポータル（EurekAlert!、AlphaGalileo）を活用し、研究活動の海外発信を展開している。同ポータルで発信した「河川の流量を測定するシステム（KU-STIV）」にオーストラリアの企業から技術の利用について照会があり、同国クイーンズランド州政府による英語版KU-STIVシステムソフトウェアの購入に至るなど成果を上げている。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ グローバル人材育成に向けたダブル・ディグリー・プログラムの展開

グローバル人材の育成に向けて、第3期中期目標期間中にダブル・ディグリー・プログラムを30コース以上に拡大することとしており、大学院課程（国際文化学研究科、法学研究科、経済学研究科、経営学研究科）での新規プログラム4コースの開設も含めダブル・ディグリープログラム数が22コースにまで拡大している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 多職種連携研修の開催による地域医療の担い手育成

兵庫県下の医療機関の医療提供体制を強化するため、災害・救急医療、感染症医療、高齢者医療等の多職種が連携した研修、救急救命・新生児蘇生・産科急変等に対する講習会の開催、県内若手医師を対象とした動物を用いた低侵襲外科手術トレーニング研修の開催等、現場のニーズも踏まえながら地域医療の担い手育成に取り組んでいる。

（診療面）

○ 患者相談報告システムによる医療安全体制の強化

医療事故を未然に防ぐためのインシデント報告システムに新たに患者相談報告システム機能を追加し、患者相談窓口で受けた患者相談内容を速やかに医療の質・安全管理部に報告する仕組みを構築するなど、医療安全体制の強化につなげている。

（運営面）

○ 医薬品経費削減に向けた取組の実施

医薬品の経費削減を図るため、直近1年間の医薬品の使用状況を調査し、安全性に十分配慮した上で購入量が少ない40品目の採用中止や先発医薬品56品目の後発医薬品への切替等に取り組んだ結果、後発医薬品の数量ベースのシェア率が85.6%（対前年度比6.2ポイント増）となり、医療の効率化を推進している。